



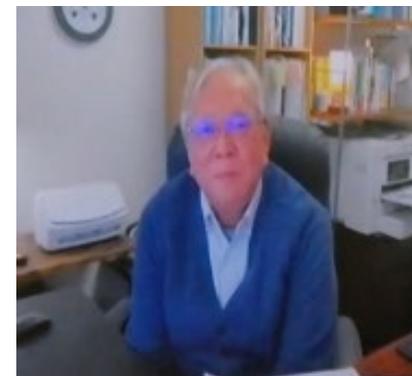
北陸デジタル田園都市国家インフラ整備推進協議会（第4回） に社会実装関係者として参画



北陸情報通信協議会G空間×ICTまちづくり推進部会（部会長：飯島泰裕金沢大学客員教授）は、令和6年2月29日（木）に、北陸総合通信局の会議室とオンラインによるハイブリッドで開催された、北陸総合通信局が事務局の「第4回北陸デジタル田園都市国家インフラ整備推進協議会」に社会実装関係者として参画しました。

当会合は、北陸地域における「デジタル田園都市国家構想」の実現に向けて、5G等の通信基盤整備に資するため、地方公共団体、通信事業者等との間において、地域におけるデジタル実装と通信基盤整備のマッチング等の推進を目的としており、G空間部会は同協議会の社会実装関係者として参画しています。

G空間部会からオンライン参加を含め13名が参加しました。



飯島部会長 オンラインで参加

第4回では、地域課題解決のための先進的なソリューションの社会実装に取り組む3事例の紹介があり、質疑応答・意見交換がされました。

- 事例1. デジタルツイン活用を見据えた雪害対策等の実用化に向けた社会実証の取り組み（加賀市デジタルツイン基盤協議会）
- 事例2. 2大交通拠点をつなぐ自動運転バス導入事業（小松市）
- 事例3. スマート水田サービス paditch（株式会社笑農和）

会場内の模様



正面 大薮副部会長（左） 菱田北陸総合通信局長（右）

質疑応答・意見交換では、飯島部会長から事例1の雪害対策の取り組みについて、路面の画像データを取得するにあたっての質問、事例2の自動運転の取り組みについて、実証に終らず実装される見込みが高い取り組みであることから、使用するシステムのメンテナンスの頻度やランニングコストに関する質問、事例3のスマート農業について、農業の実労働に占める割合が高い水管理について言及、水門に泥がたまる課題についての対処方法について質問があり、質疑応答がなされました。

当部会では、社会実装関係者として、引き続き北陸デジタル田園都市国家インフラ整備推進協議会に参画していきます。